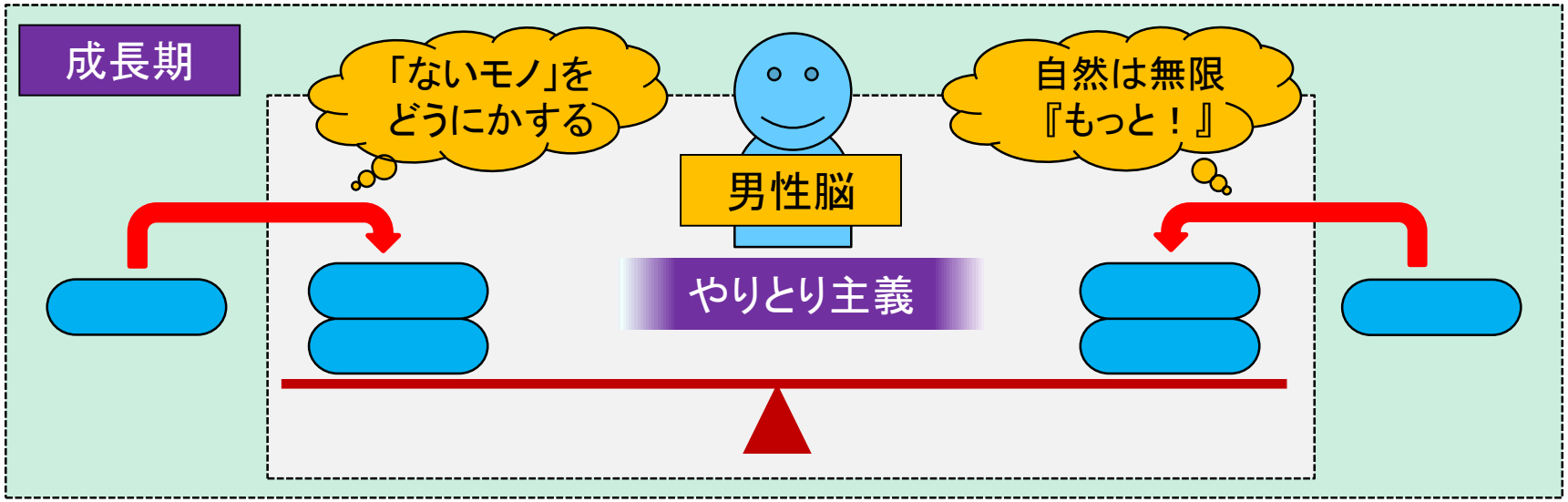
ピカイチ先生の
生活経営セミナー

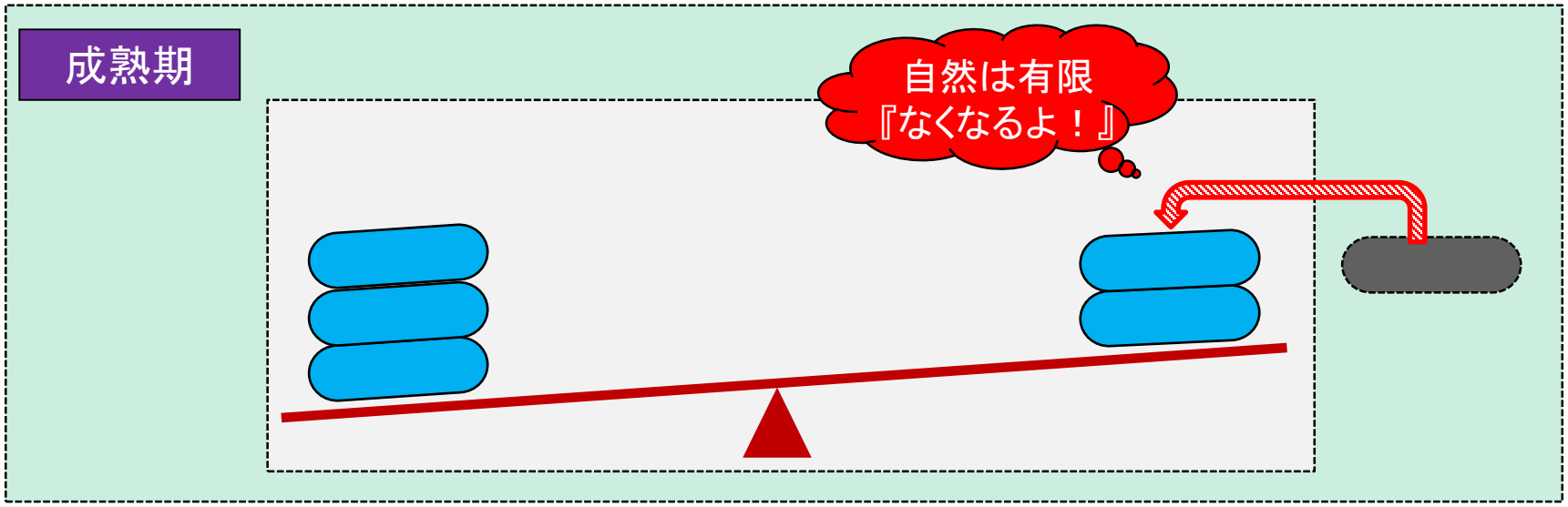
2017年12月
物理で考える資産運用
（① 統計力学）

ネクストライフ・コンサルティング
〒975-0038
福島県南相馬市原町区日の出町167-3
info@next-life-consult.com
ピカイチ先生　検索

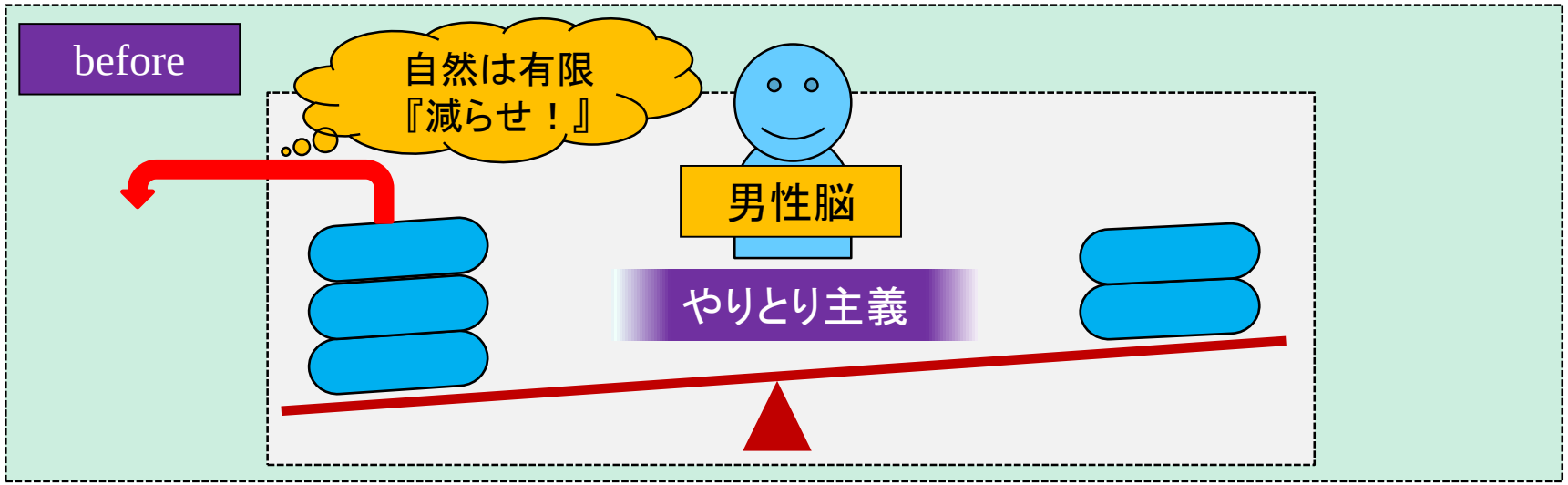
ピカイチ先生

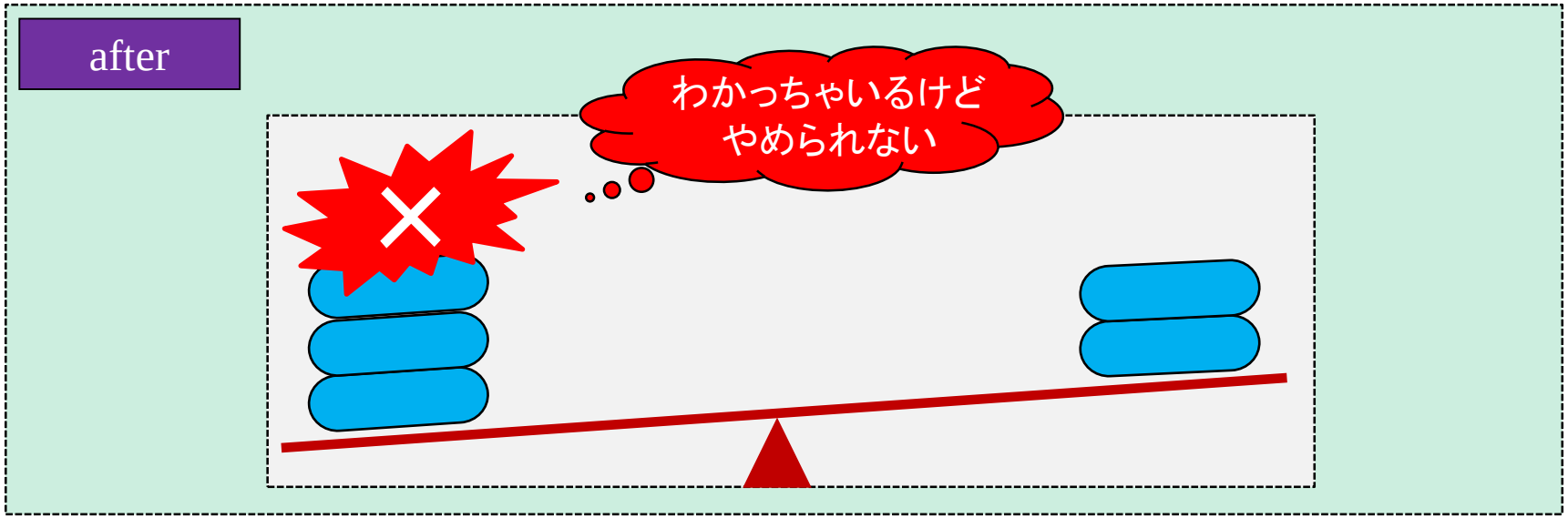
成長期は、男性脳『量』で効率的に



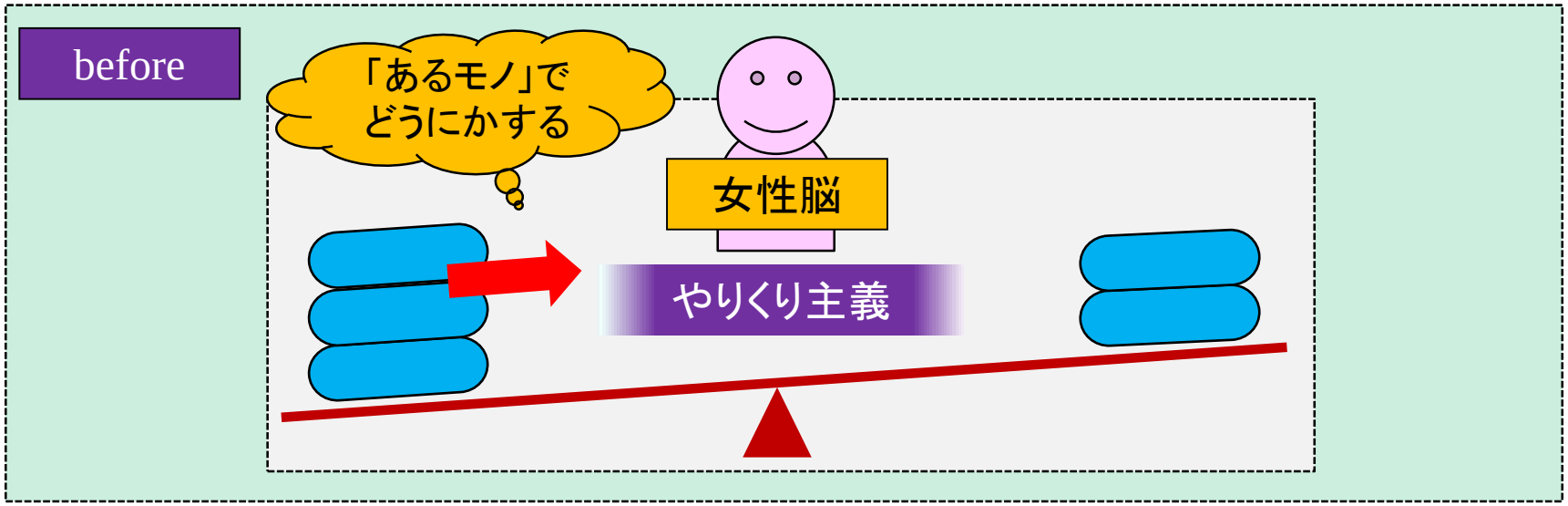


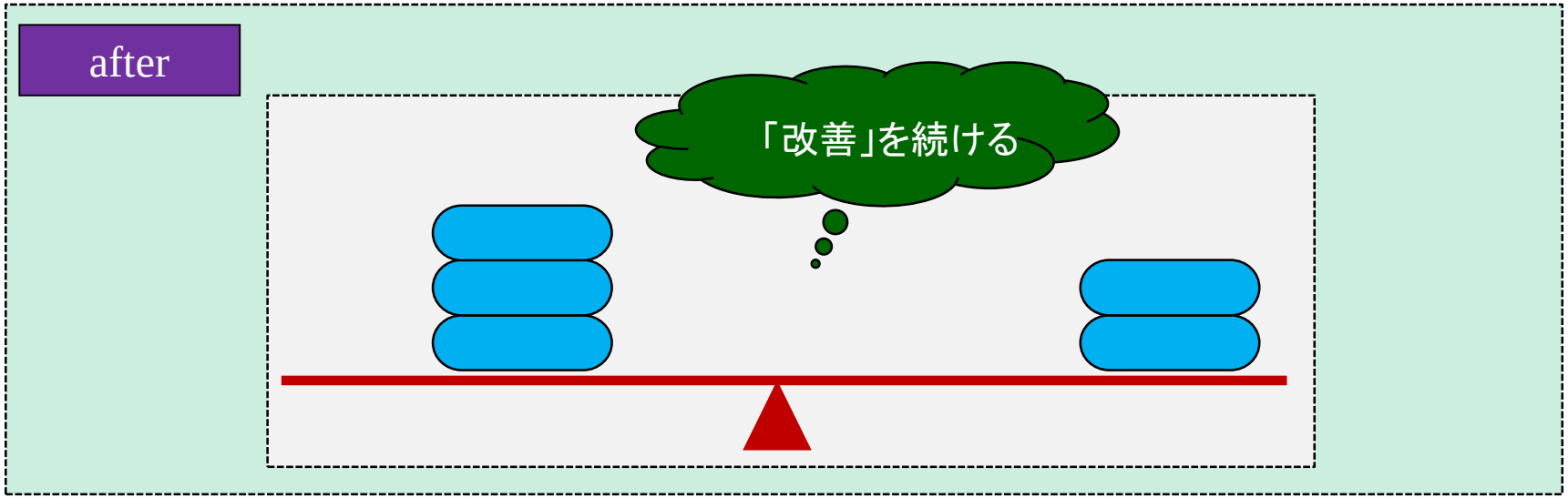
成熟期は、男性脳『量』で対応できない





成熟期は、女性脳『質』で対応する





夫婦は一心同体

男女のものの見方の違いを思うたびに、この世に、二つの違う脳があることの意味を思い知る。この組み合わせは、とても合理的だ。脳を遠近両用のハイブリッドにすると、判断が遅れる。どっちかに集約しているからこそ、瞬時に危険を見分けられるのだ。遠くの危険と、近くの危険を瞬時に見抜く脳の組合せが夫婦というものなのだろう。

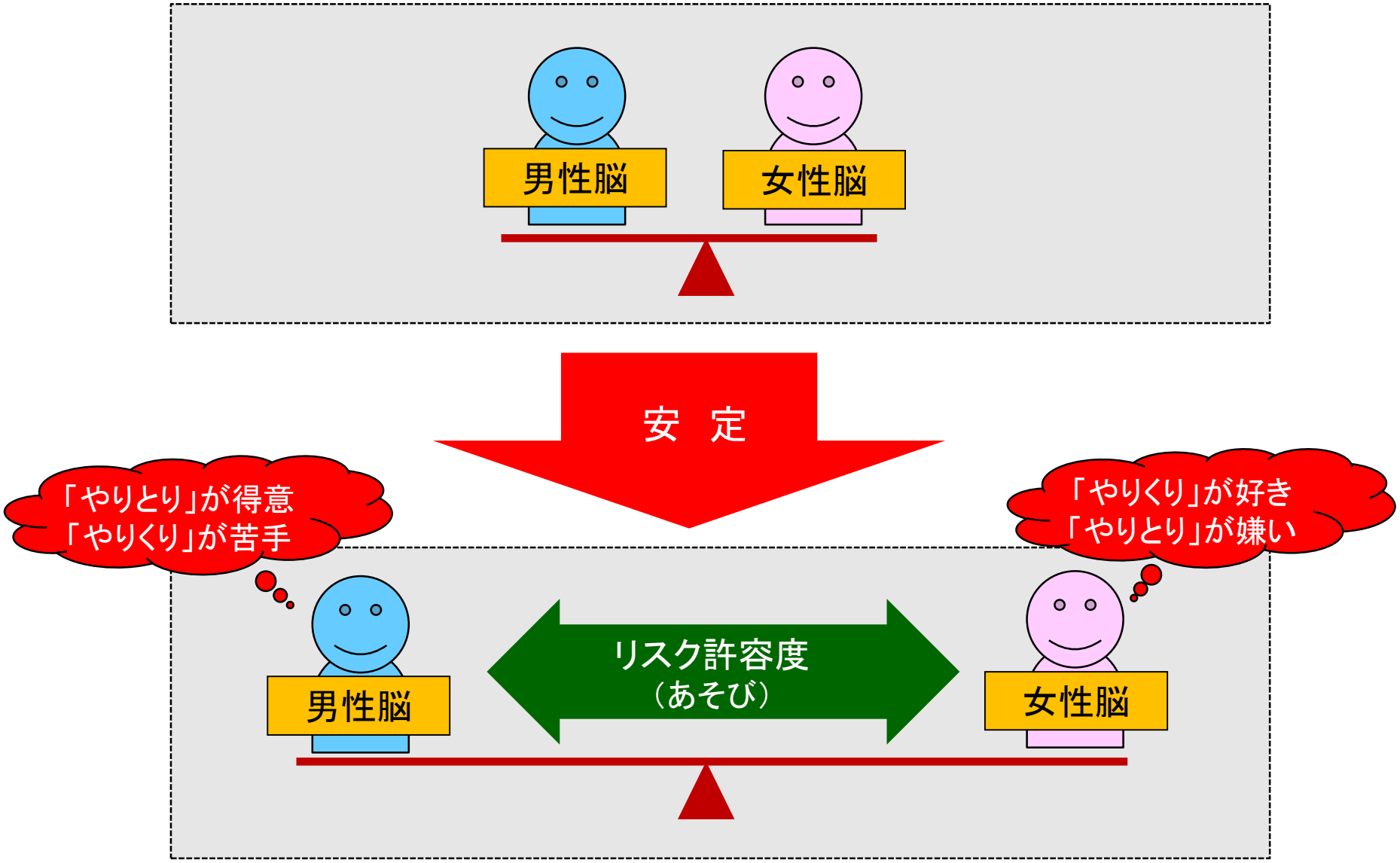
しかも、発情し合う男女は、免疫抗体の型が遠く離れて一致しない。男女は、体臭の一部で免疫抗体の型を知らせ合っており、その型が一致しない方が、互いの好感度が高いからだ。

免疫抗体の型、すなわち外界に対しての生体としての反応がことごとく違う男女が、まったく違うものの見方で一緒に暮らす。夫婦の脳は、一対で精緻なメカのようなものであり、けっして離れてはいけない。恋とか愛とかを超えた、共に生きる意義がそこにはある。

『夫婦は一心同体』ということばの本当の意味は、ここにあるのだと思う。感性がことごとく違う二人が、チームとして完全体の組織を作り上げる。心を一つにするのは、健やかな暮らし＝よりよい生存という生物としての使命を果たす思いにおいてであり、「同じことを感じ、考える」ことではない。

「夫婦脳」（黒川 伊保子）より

夫婦脳（一心同体）で考える



生物学者が発見した“分子”の存在（1/2）

たとえば、ここで水の表面に浮かぶ粉について考えてみよう。水の上に落ちた粉の動きを、われわれは決定論的に予測することはできるだろうか。

おそらく粉は、徐々に水の表面を広がっていくだろう。しかし、いくら観測精度を高めたところで、一つひとつの粒子の動きを予測することはできない。それぞれの粒子は、まったくランダムな動きを示すのであって、そこには何の規則性もない。

水の中の微粒子が、まったくランダムな運動を行なうということを発見したのは、十九世紀前半の植物学者ロバートブラウン（1773～1858）であった。ブラウンは顕微鏡によって花粉の観察をしていたときに、この現象を偶然に見つけた。

彼は花粉を顕微鏡で観察して、受精の仕組みを調べようとしたのだが、驚いたことにレンズの向こうで花粉から飛び出た微粒子が、ぶるぶると震えながら動き回っていたのである。しかもその微粒子は、時折、思いもかけない方向にピョコンと飛び跳ねる。

（次頁につづく）

「宇宙には意志がある」（桜井 邦朋）より

生物学者が発見した“分子”の存在（2/2）

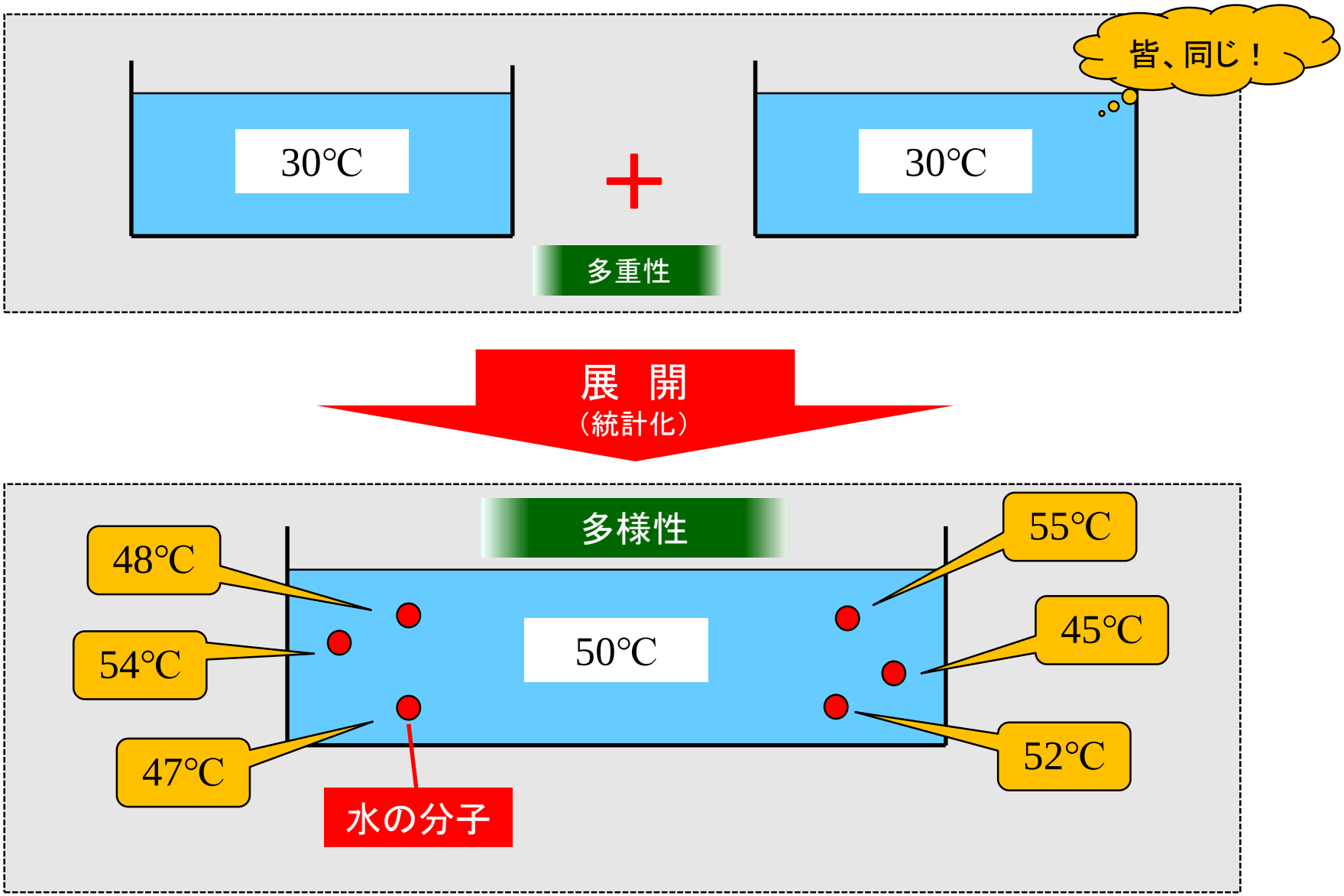
彼は最初、この動きは花粉そのものの生命活動だろうと考えた。ところがこの動きはどんな花の花粉でも同じだし、それどころか古くなった花粉や、わざと殺した花粉でも変わらないので、おかしいと思うようになった。

こうした彼の直感は、彼があるとき誤って花粉を傷つけて、こなごなにしてしまった粒子までが、同じように動くのを見て、さらに揺らぎないものになった。バラバラになった破片までが動くのでは、これは花粉そのものの動きではない。早速、彼は花粉以外のさまざまな材料で実験してみた。すると、石炭の粉末や樹脂の破片でも同じように動いたのである。

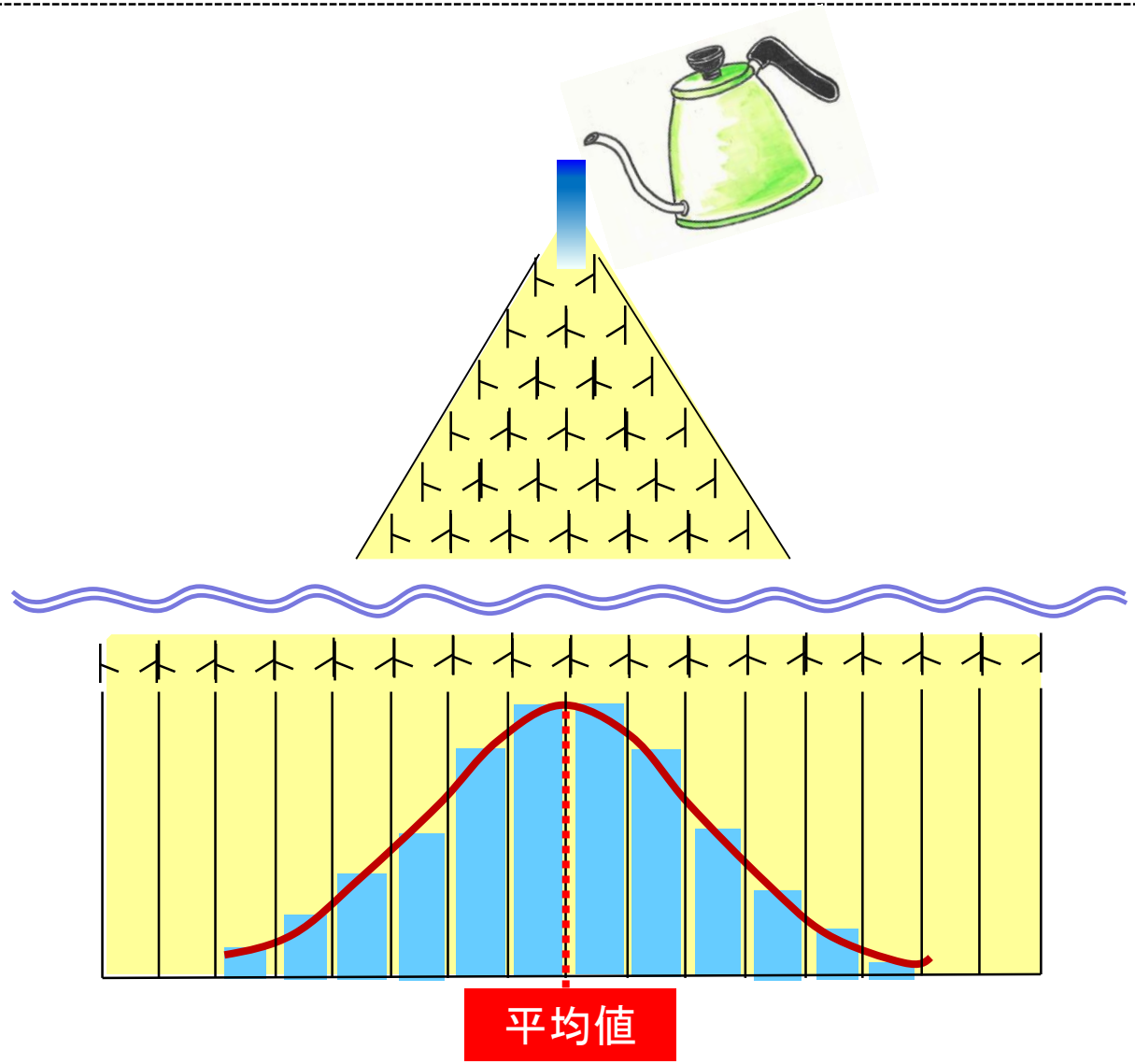
ブラウンは、なぜ、この“ブラウン運動”が起きるのか分からなかった。というのも当たり前の話で、彼の時代においては、ブラウン運動を起こしている分子そのもの存在が知られていなかったからである。

「宇宙には意志がある」（桜井 邦朋）より

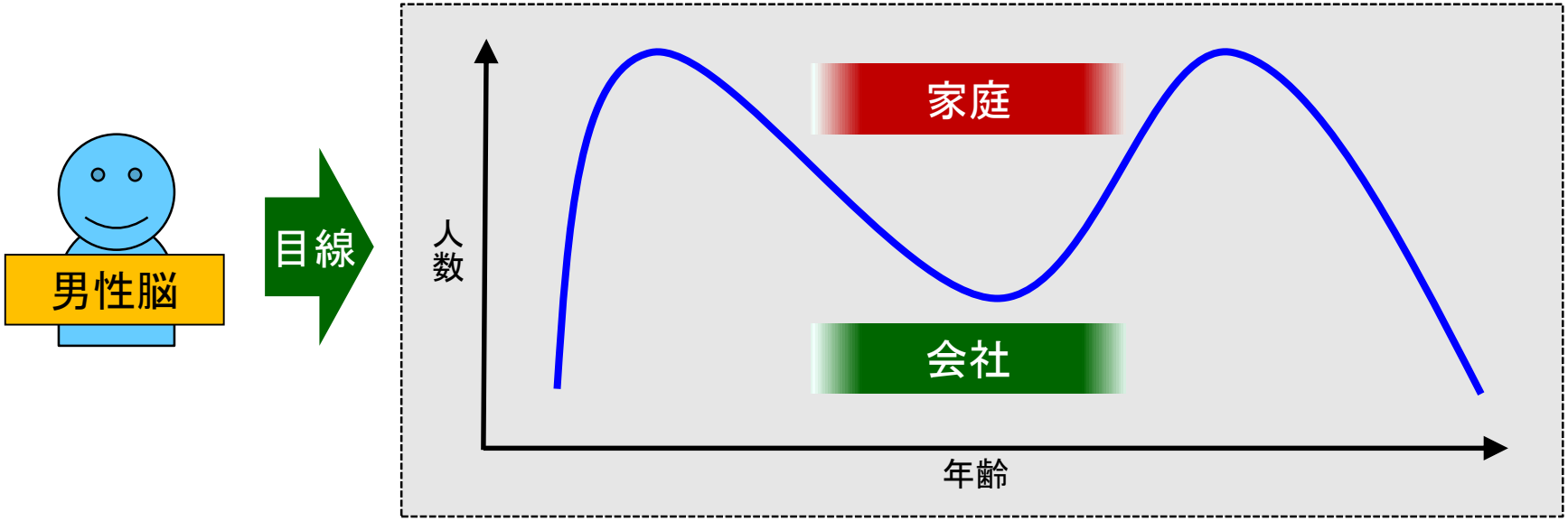
「古典力学」から「統計力学」へ

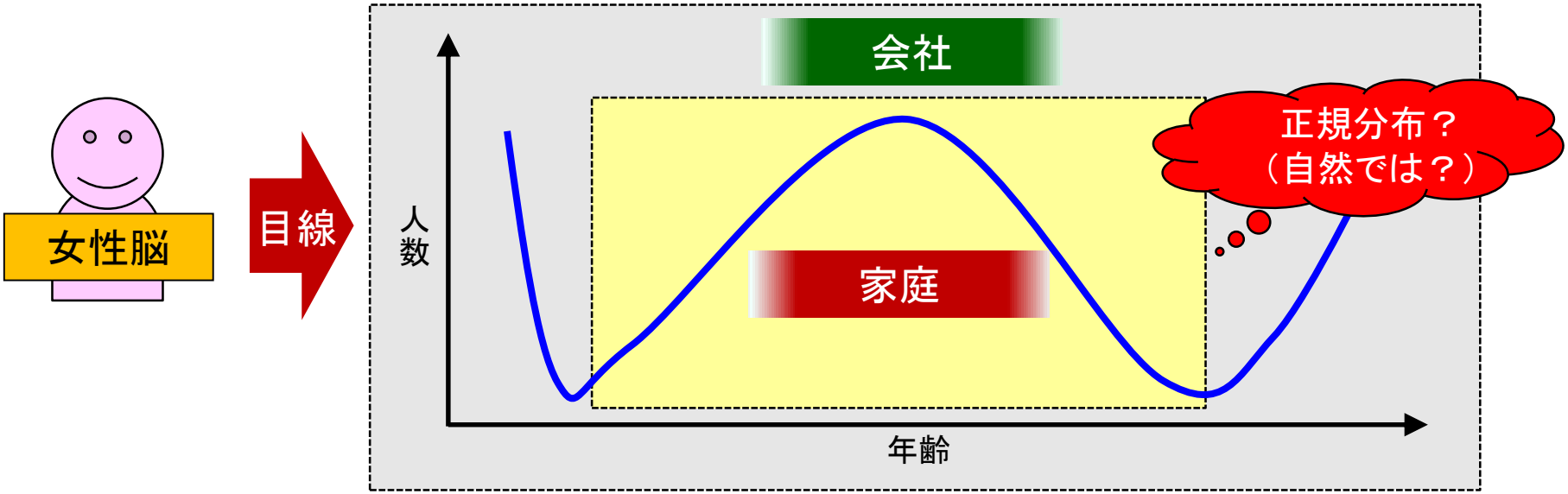


「平均値（正規分布）」で考える

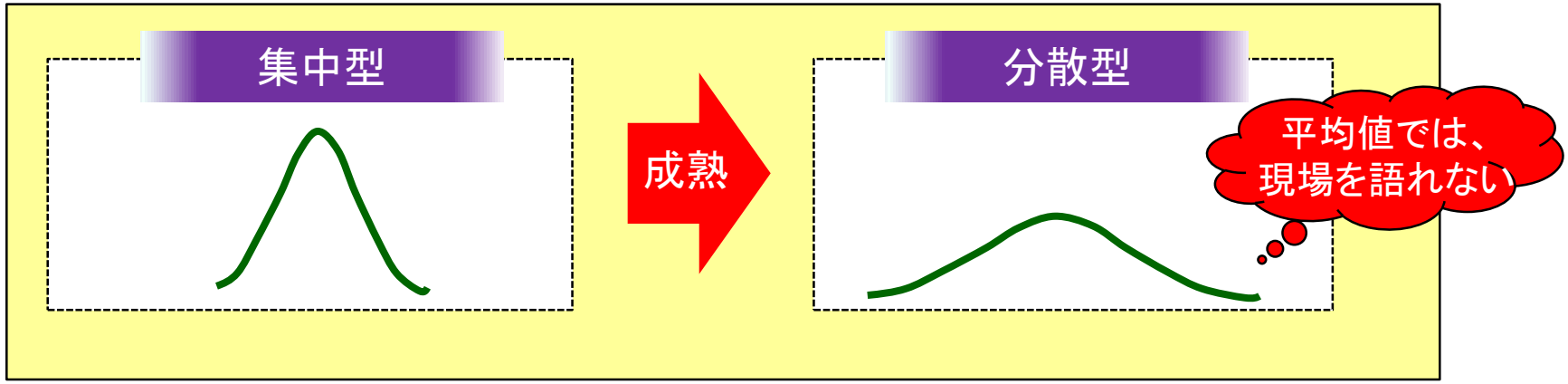


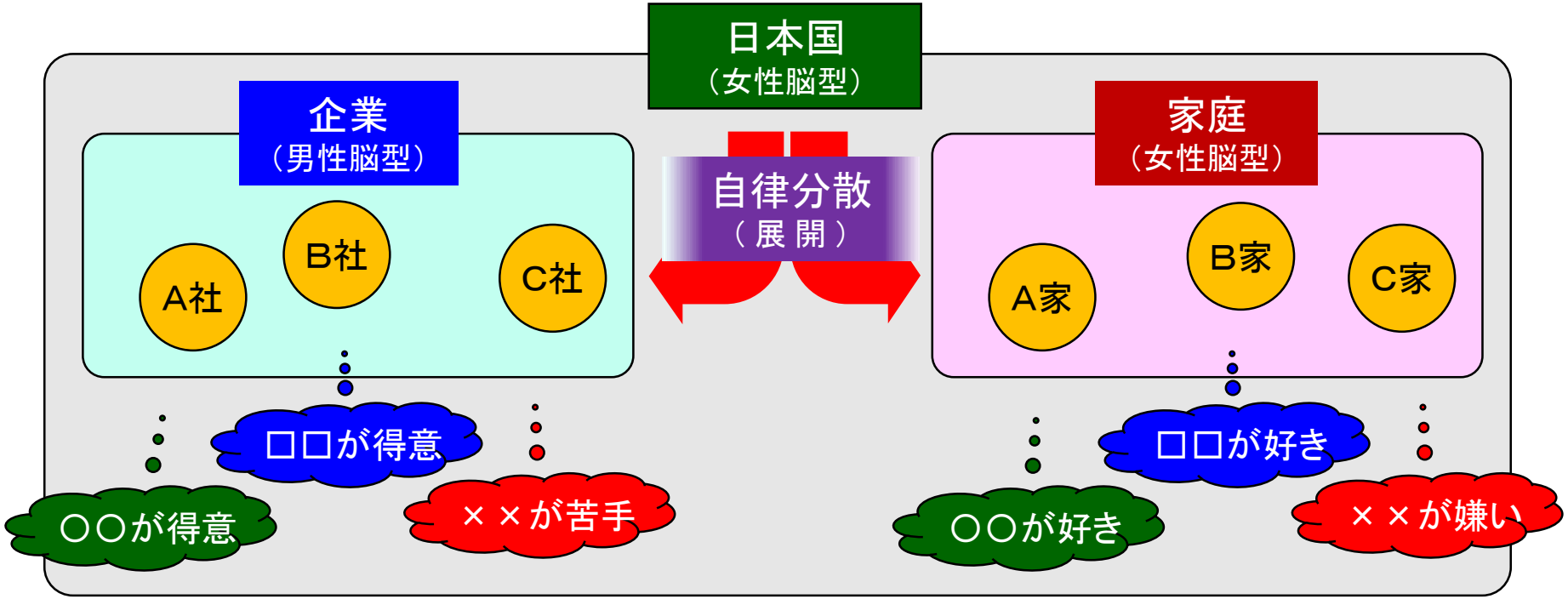
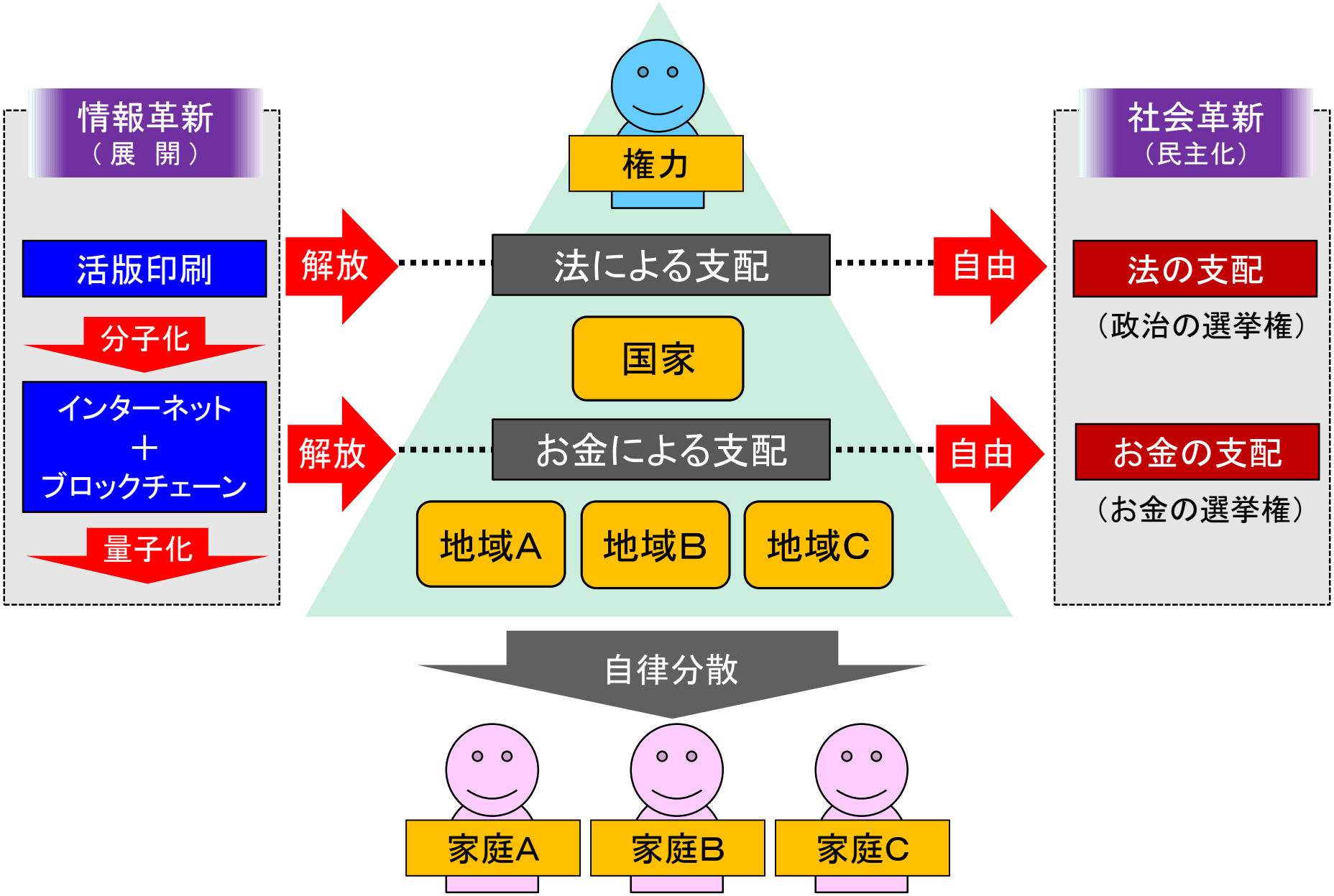
「家庭」から「M字カーブ」を見る





「集中型」から「分散型」へ


集中型
成熟
分散型
平均値では、
現場を語れない


日本国
（女性脳型）
企業
（男性脳型）
A社
B社
C社
□□が得意
○○が得意
××が苦手
自律分散
（展開）
家庭
（女性脳型）
A家
B家
C家
□□が好き
○○が好き
××が嫌い

「ブロックチェーン」の波とは？